

令和5年度第3回学校運営協議会 兼 魅力化コンソーシアム役員会 議事録

1. 期 日：令和6年2月26日（月）

2. 時 間：15：30～17：00

3. 場 所：松江農林高校会議室

4. 出席者：

氏 名	所 属
能海 広明	松農会 会長
小林 伸雄	島根大学生物資源科学部 副学部長
梶谷 朱美	島根県立大学短期大学部 学部長
角森 章子	島根県立農林大学校 校長
曳野 貴志	松江農林高校 PTA 会長
大岩 睦子	地域代表
矢野 俊人	松江農林高校魅力化コンソーシアムマネージャー
原 隆志	松江農林高校 校長
大庭 荘平	松江農林高校 教頭
石倉 裕子	松江農林高校 事務長
中村 丈志	松江農林高校 総務主任
藤原 智子	松江農林高校 教務主任
奥井 亘	松江農林高校 生徒指導部
立原 祐二	松江農林高校 農場長
齋藤 寿和	松江農林高校 魅力化推進室長
曾田 稔	松江農林高校 魅力化推進室

5. 議題

(1) 令和5年年度学校運営について

- ・重点目標と自己評価
- ・生徒、保護者による学校評価アンケート結果

(2) 令和6年度学校経営方針について

(3) 令和5年度ご縁コンソーシアム事業について

(4) 令和6年度ご縁コンソーシアム事業予算について

- ・三菱みらい育成財団助成金の活用
- ・クラウドファンディングの活用

(5) 意見交換

6. 主な意見

○生徒募集について

・部活動で高校を選ぶ中学生は多い。部活動の面でも魅力を発信することが生徒募集には重要だ。

・松江農林高校志望の中学生の保護者から相談を受けた。子供が中学校の担任に、「土を触ったことのない人は農林高校には行けない」と言われたと。中学校の先生に意識を変えてもらう必要がある。

○幼保小中高大の連携

・「こっそり畑プロジェクト」は幼児の保護者から大変人気があった。若い親の世代は農業への関心が高いと感じた。

・幼保園との連携など小学校就学前の子どもにも魅力を伝えるのは良い。

・島根県の小中学生の不登校率が高い。中には、家でゲームがしたいから学校を休むと言う児童もいると聞いた。高校生が小学校に出前授業をして、あこがれのお兄さん、お姉さんという立場で夢を与えてあげることができると良いのではないだろうか。

○農業人材育成について

・耕作放棄地の問題などの社会課題の背景には、農業従事者が減少しているという事実がある。農業を「なりわい」として考える場面を、教育の中で増やしていく必要がある。

・農業を生業としている地元の人と本音を語り合うような機会を作ることも必要。

・林業は現在就職先も多く、農林大学校からも一定数就職している。林業にももっと目を向けると良い。

○学習活動について

・食品開発について、災害が多発する現代の日本においては、災害備蓄としての製品開発の視点もあるのではないか。

・地域との連携した学習について、学校ですべて準備された状況で生徒が学ぶだけでなく、そのままの地域の行事等に入っていき体験も必要である。

・地域の農業人材の育成が本来の教育目標であろうが、地域にこだわらず、自分の興味を追求したり、ライフスタイルとして楽しいことをやらせて伸ばしていてもいいと思う。そのような自由な学びをしている都内の農業高校の事例も聞く。松江農林に行ったら将来が開ける、と生徒に思ってもらえるような教育ができればいい。